Human　biology　 p203

Bans on smoking（喫煙の禁止）

１９６４年、アメリカの公衆衛生局長は、喫煙が健康に害を及ぼすことを一般に周知させ、以後煙草の箱には健康に関する注意書きが書かれることになった。

当時成人の４０．４％が喫煙していたが、１９９０年までには（成人の喫煙率は）約２６％となった。しかしながらこの間に人々は受動喫煙、つまり喫煙している人の傍にいるだけでも、癌やその他の健康に関する問題が引き起こされる可能性があると気付くようになった。これまでに、多くの州や地方自治体がレストランやエレベーター、公会議場などの公の場所や、職場での喫煙を禁じる法律を可決している。

喫煙の自由を制限する法律は道義に適ったものなのだろうか？或いは、そのような法律は人種差別に類似したもので、生活習慣に基づいて大多数の人々から差別される「二級市民」となる人々を造り出してしまっているのだろうか？非喫煙者の希望が喫煙者の権利を侵害することは容認されるのだろうか？また或いは、（喫煙を制限する）この法律は喫煙者が禁煙する助けとなる１つの道なのだろうか？ある研究では、職場での禁煙が喫煙者の１日の煙草消費量を１０％減少させたと報告されている。

喫煙の禁止は、重要な経済的影響を持つ。法律は、ファミリーレストランでは喫煙を禁止するかもしれないが、カジノに関係するバーやレストランでは喫煙が許されるかもしれない。いくつかの州では、職場での喫煙の禁止は未成年の従業員にとって仕事がかかっている。バーでは、もし 21 歳以上であったら喫煙が許される。しかし、つまりは 21 歳未満の従業員はやめなければならない。いくつかの職業を違ったふうに扱ったり、人々に仕事を与えなかったりすることは公平であろうか？タバコを売ることとそれが生み出す健康管理の高まる必要性でさえ経済を助ける。ある喫煙者は言っている。「喫煙は、人々にもっと飲ませたり、もっと食べさせたり、より多くのチップを残させたりする。喫煙はまたウォール街の経済を促進する。」と。これは喫煙を続けることを許す理由となるだろうか？もしくは、私たちは仕事のあらゆる場所に空気清浄システムを組みこむ要求をするべきであろうか？それは受動喫煙の危険性を取り除くであろうか？

いくつかの場所での喫煙を禁止する法律は、政府による私たちのプライバシーの侵害を表わしているのだろうか？もし、その答えが YES なら、癌になる確率を減らすことは、政府にわたしたちのプライバシーを侵害させる良い十分な理由であろうか？他の人よりも癌になりやすい人がいる。私たちはみな同じ法律で規制されるべきであろうか？